

ドベ処理に期待と不安



ドベで埋まった百間港

17日から熊大が調査

“水銀汚染”行方見守る地元

水俣市百間港（水俣湾の一部）に大量に積んでいるドベの本格調査が、十七日から熊大の手で始まるが、地元では有機水銀中毒の危険を取り除くため「早く埋め立てを」の声が高まっている。

強い埋め立て望む声

百間港はチッソ水俣工場から約一七年の港湾築造では水深六・五メートルに達し、このドベの中に水俣病の原因と
五百メートル離れて、同工場の排水溝がで、三千トンの船が接岸可能に設計
ある。港はこの排水溝から西に広がっているが、排水溝から約三百メートル排水と
がついているが、排水溝から約三百メートル排水の流れ込みでドベが残り、この十五年来
ほとんどは幅四十メートルの水路。昭和十一年、水俣町になったと、手つかずのままで、

水俣百間港

しゅんせつの子算をつけたが、市漁協との話し合いがつかず、予算は流れるといういきさつもあった。ドベは粒子の細かいもので、しゅんせつしても一〇〇割回収することは不可能なため、ドベが付近一帯を汚染させる恐れがある。また、たとえしゅんせつしても捨て場所がないという。

排水溝から約六〇〇戸離れた三年ヶ浦方面に五千トバス二つが昨年までに完成したが、これは三十二年からの工事で、水俣病との

関係から途中で一時工事を中止していた。ボラ、エビなどの漁期との関係から海底をいじる作業は一年のうち短期間に限られて長期工事になった。

県水俣港管理事務所でも「ドベたい積部分は港としての機能は果たせなくなっている」と言っており「埋め立てが最も現実的な方法だ」としている。浮油市長も「ドベのある部分は細長くて港としては役立たない部分であり、個人的には埋め立てが最良の方法だと思

う」と繰り返し言っている。埋め立ての代わりに港の前面にある恋路島と明神鼻を防波堤で結び「大型港」にする構想もある。

いずれにしても、付帯住民は「現状のままで危険だ」というのなら、何らかの手を打つべきだ。埋め立てれば危険はなくなるのか、またしゅんせつすればどんな影響があるのか。そこいらを総合的に研究して、どちらかを選んでほしい」と近く始まる熊大調査に期待をかけている。